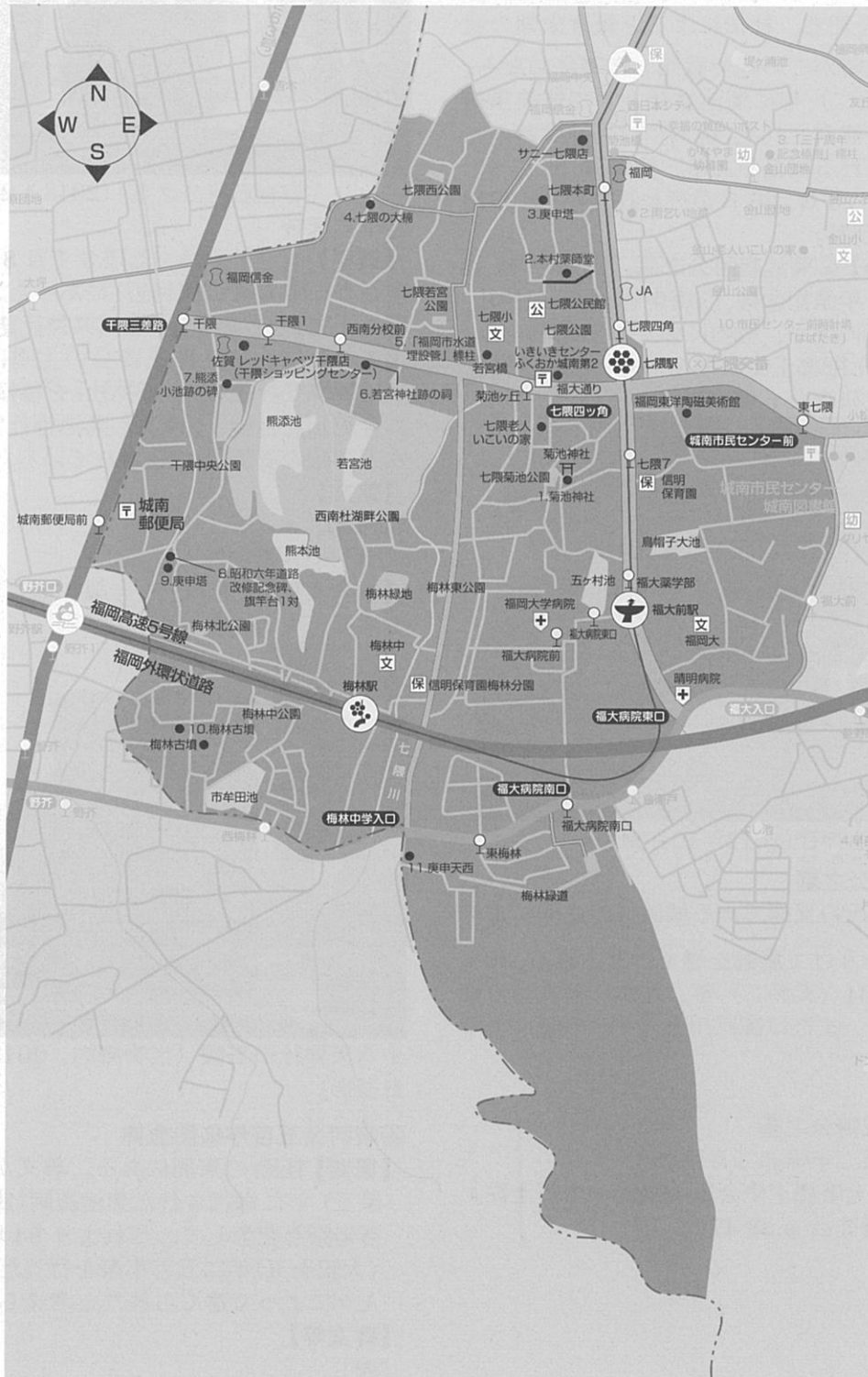


10 章 なな くま 七隈校区



10章 七隈校区

1. 菊池神社

【所在地】城南区七隈7丁目 10-1

① 菊池神社

【概要】主祭神として、菊池武時^{きくちたけとき}命、埴安^{はにやす}命、大鷦鷯^{おおさざき}命を祀る。社伝によると鎌倉末期の武将・菊池武時がこの地で戦死した事にちなみ、1869（明治二）年に菊池霊社として筑前黒田家によって建立された。境内には菊池武時のものと伝えられる墳墓がある。例祭 4月13日、夏越祭 7月25日、26日が行われている（2013年3月調査時）。

【境内祠堂等】②菊池寂阿公之墓、③十六天神、④寂阿公五百年祭記念碑、⑤庚申塔、⑥五穀神社、⑦祠と地蔵のほか、境内に多くの石造物あり。

【参考文献】七隈郷土史会編 1986『七隈郷土誌』七隈郷土史研究会 p.38-47



菊池神社 (2013年10月撮影)

② 「菊池寂阿公之墓」

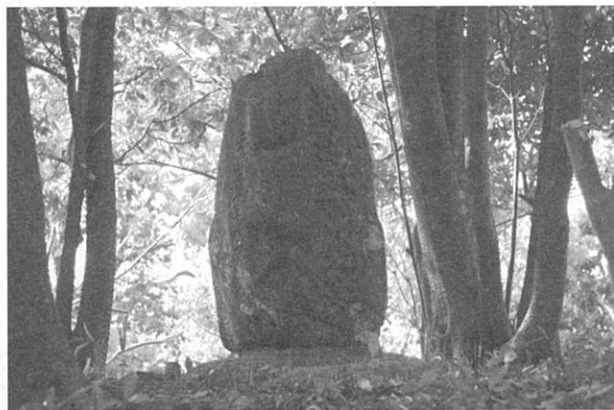
【概要】菊池氏の支裔である城武貞の主唱により藩主の允許をうけて墓碑を建てたとされる。碑文の年代は 1831（天保二）年。なお、碑文は吉留涉（杏村と号、または源巨川と号す）の筆によるものという。

【銘文】

〔表〕 菊池寂阿公之墓

〔側面〕 天保二年辛卯二月建之

【参考文献】七隈郷土史会編 1986『七隈郷土誌』七隈郷土史研究会 p.38-47



「菊池寂阿公之墓」(2013.1.26 撮影)

③ 十六天神

【概要】もともとは、七隈3丁目 8-24（2013年現在の七隈3号公園付近）にあったとされる（『七隈郷土史』など参照）。『福岡県神社誌』によると、大正八年に、早良郡史談会の主唱に基づいて七隈氏神埴安神社（十六天神社）を移転し、菊池神社に合祀したという。現在、菊池神社宝物庫内に十六天神社の石額*1が残されている。

【銘文】

*1 石額

〔表〕 十六天神社

【参考文献】七隈郷土史会編 1986『七隈郷土誌』七隈郷土史研究会 p.38-47



十六天神社の石額（宝物庫内、2013年1月26日撮影）

④ 寂阿公五百年祭記念碑

【概要】社殿の東側にある。碑文から、1832（天保三）年に举行された菊池寂阿（武時）の没後五百年祭を記念して、これより94年のちの1926（大正十五）年に五百年祭を行った人物の縁故の人々によって建てられたと考えられる。

【碑文等】

〔表〕

寂阿公五百年祭記念碑

贈従一位菊池寂阿公ノ大口父城越
前守隆経二十代ノ裔孫贈正五位城
武平公ノ七隈ノ墓ヲ修造ス藩主黒

田斎清公神社ヲ其地ニ建ツ天保三年三月十三日公ノ五百年忌辰ニ當リ武平祭主ト為リ祭ヲ祠前ニ営ム闔藩ノ名士各詩歌ヲ献ズ尔来一國勤王思想ノ鼓吹地タリ今ニ迨テ九十四年武平逝テ六十二年今茲碑ヲ祠前ニ建テ之ヲ記念ス

〔裏〕

大正十五年四月十三日

武平孫 麻生久子
城 禄子 建



寂阿公五百年祭記念碑。写真向かって左は菊池神社々殿（2013.1.26 撮影）

⑤庚申

【概要】宝永元年(1704)の銘があり、上部に日月の印しがある庚申塔。境内の南西側に位置する。近くに、⑥五穀神社、⑦祠と地蔵がある。なお、『福岡市の庚申塔』に記載がない。

【銘文】

〔表〕庚申

〔裏〕宝永元年



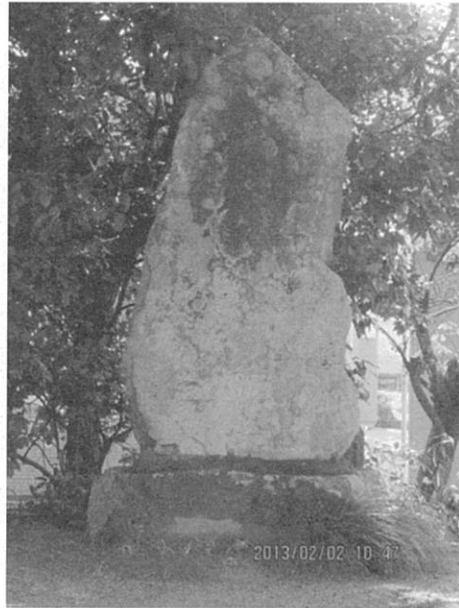
庚申（2013.1.26 撮影）

⑥「五穀神社」

【概要】『七隈郷土史』には、「五穀神社」として記載がある。

【銘文】

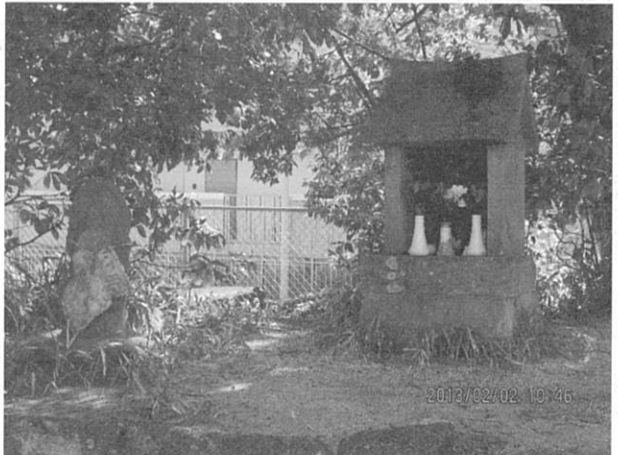
〔表〕天照皇大神 埴安命 倉稻魂命 少彦名命
大己貴命



「五穀神社」(2013.2.2 撮影)

⑦祠と地蔵

【概要】詳細不明。祠の中には陶器製の稲荷が祀られている。



祠（写真向かって右）と地蔵（同左）、2013.2.2 撮影

2.本村薬師堂

【所在地】城南区七隈4丁目17

【概要】近隣では「眼病によくきく薬師様」とされている。1986年刊の『七隈郷土誌』には、「六十年ほど前、この薬師堂は一坪くらいのお堂であった。堂内には小絵馬と、筆で「め」と書かれた札が所せましと貼られ、線香の煙りが立ちこめていた」（七隈郷土史研究会編 1986：53）とある。現在、薬師堂の中には薬師如来像の他に十二神将などの像が祀られているほか、境内入り口左側には修行大師像が祀られている。

なお、七隈郷土史には、「毎月七日、近所の信者が集まり、それぞれ持参の弁当を開いての「お

こもり」が行われている」(前掲書 1986 : 53) とある。

【境内祠堂等】堂内十二神将像や外部の修行大師像など多数。

【参考文献】七隈郷土史会編 1986『七隈郷土誌』七隈郷土史研究会 (p.52・53)



正面薬師堂、写真に向かって左側に修行大師像 (2013.2.11 撮影)

3. 庚申塔

【所在地】城南区七隈 4 丁目 21・9

【概要】ディアス城南の東南の角にある。『福岡市の庚申塔』によると、年代は明和九年(1772)。石質は花崗岩、法量 106.0×40.0 (福岡市教育委員会編 1993 : 112)。

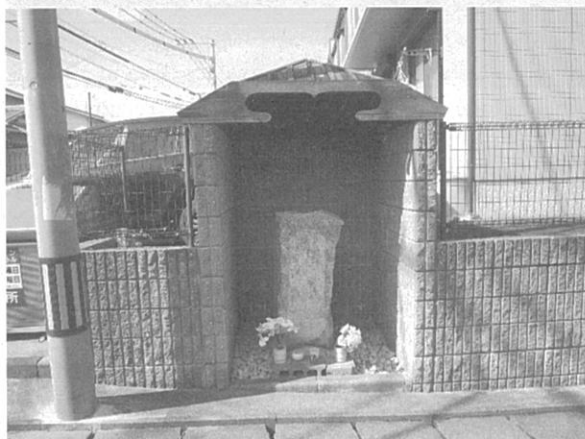
【銘文】

[表] 庚申塔

[右側面] 明和九壬

[左側面] 辰三月吉日

【参考文献】福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会 (p.50、p.112、該当 NO.208 城・17)



庚申塔。後方がディアス城南 (2012.10.26 撮影)

4. 七隈の大楠

【所在地】城南区干隈 1 丁目・1 (林氏敷地内)

【概要】近隣では「七隈の大楠」と呼ばれている。福岡市の保存樹(クスノキ 城 8 号)に指定されている。『七隈郷土誌』には、「この大楠、かつて

は「七隈の大楠」と呼ばれ、付近の人々を初め早良一帯の人々から親しまれていた。その場所が旧街道が交差する所にあり、「菊池道」と書いた石標も建っていたというから、旅人の目標としても大切な木であったのだろう」(七隈郷土史会編 1986 : 56) とある。また、大楠の根元には不動明王が祀られている祠がある。



七隈の大楠 (2012.10.24 撮影)

5. 「福岡市水道局埋設管」標柱

【所在地】城南区七隈 4 丁目 25 (七隈小学校南西角付近、若宮橋たもと付近)

【概要】七隈川にかかる若宮橋の東側、七隈小学校の南西角にある。

【銘文】[表] 福岡市水道局埋設管、[右側面] 口径一〇〇〇耗、[左側面] 昭和五十五年度、[裏] 福岡市水道局埋設管



写真右に七隈川、同右奥の橋が若宮橋 (2013.2.11 撮影)

6. 若宮神社跡の祠

【所在地】城南区七隈 6 丁目 古林^{こばやし}レイ氏宅

【概要】旧若宮神社が菊池神社に合祀された後、

古林祐二氏（故人）が以前の所在地に祠を祀ったもの。若宮神社は、七隈川に架かる若宮橋（七隈小学校の南西橋、平成3年1月完成）や若宮池（西南の杜湖畔公園の野球場西側に隣接）の名前の語源となった神社。古林祐二氏の妻である古林レイ氏によると、若宮神社が菊池神社に合祀されたのち、同地を祐二氏が購入し、陶器製の小祠（高さ約2尺、茶色）を作り祀ったとのこと。現在、管理は古林レイ氏がされている。

（※以上、梅林孝雄氏の調査による）

【参考文献】七隈郷土史会編 1986『七隈郷土誌』
七隈郷土史研究会 p.36-37



写真中央に祠（梅林孝雄氏により 2011 年撮影）

くまぞえ 7.熊添小池跡の碑

【所在地】城南区干隈2丁目 11-21 干隈集会所
【概要】干隈集会所の敷地内に碑が建てられている。碑文には、もともとその場所にあった熊添池を埋め立てた際にこの碑が建てられた旨が記されている。

【碑文等】

〔表〕熊添小池跡之碑 進藤一馬書

〔裏〕

碑文

この地は宝暦年間に筑前の國早良郡干隈村熊添池の補助池として村民が総力をあげて築造した溜池の跡地である

このたび溜池地権者の理解と協力を得て市の指導により溜池を埋立て公園及び町の東西に集会所建設の運びとなった

こんにち祖先の人達が多くの困難と闘いながら建設したその尊い遺産が今忘却されようとしている 町民は集会所完成を契機にその概要を碑文に刻し永く後世につたえるものである

昭和五十四年十一月十日

建設委員長



熊添小池跡の碑。写真手前側が干隈集会所建物（2013.2.11 撮影）

8.「昭和六年道路改修記念」碑、旗竿台 1 対

【所在】城南区干隈2丁目 28-24 干隈会館内

【概要】干隈会館内に計3本の石柱があり、このうち写真向かって左側の石柱*1に「道路改修記念」の文字が読める。また、中央と右側の石柱*2*3には上部に横方向の穴が貫通しており、神社等にある旗竿台のようである。

【碑文等】

*1 写真左の石柱

道路改修記念

*2 写真中央の石柱（旗竿台）

奉 昭和六辛未年

*3 写真右の石柱（旗竿台）

納 干隈□



写真左が昭和六年道路改修記念碑*1、写真中央と右が旗竿台*2*3。右の建物が干隈会館（2013.2.11 撮影）

こうしんとう 9.庚申塔

【所在地】城南区干隈2丁目 28-24（干隈会館内）

【概要】干隈会館内に祀られている。『福岡市の庚申塔』によると、年代は明和三年（1766）。石質は花崗岩、法量 91.0×61.0。（福岡市教育委員会編 1993：113）

【銘文】〔表〕庚申塔、〔表右〕明和三丙戌天、〔表左〕七月吉辰

【参考文献】福岡市教育委員会編 1993『福岡市

の庚申塔』福岡市教育委員会（p.50、p.113、該当 NO.209 城・18）



庚申塔。右の建物が干隈会館（2013.2.11 撮影）

10. 梅林古墳

【所在地】城南区梅林 5 丁目 42

【概要】入口の説明板*1 を参照。

【碑文等】

*1 説明板

全長 27m、後円部直径が 15.5m、高さ 3m の小さな前方後円墳です。死者を葬る施設は横穴式石室で、後円部の中央に入り口を西に向けて築いています。玄室（遺体を安置するところ）の長さは 3.9m、奥の幅が 2.0m、前の幅が 1.4m の羽子板のような平面形で、床には石を敷きつめています。

玄室からは須恵器、土師器、鉄器（鏃、斧、たがね、刀子）のほか、鞍金具などの馬具、ガラス製の管玉や小玉などの装身具が出土しています。

古墳の造られた年代は、古墳の形態や出土遺物から 5 世紀後半と考えられ、遺物の内容から追葬が行われていたようです。早良平野では、拝塚古墳（早良区重留全長 75m、4 世紀末）につぐ前方後円墳として貴重なものです。墳丘は、調査の成果をもとに復元していますが、石室は埋め戻して保存しています。

福岡市教育委員会



梅林古墳（2013.1.12 撮影）

11. 庚申天西

【所在地】城南区梅林 1 丁目 19-18

【概要】現在は梅林 1 丁目 19-18 の駐車場の一角にあるが、元々は七隈 3 丁目 9-42 にあった。年代は明和九年（1772）。石質は花崗岩、法量 108.0 × 45.0。

【銘文】

〔表〕庚申天西

〔表〕明和九壬辰天

〔表左〕四月上旬

【参考文献】福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会（p.50、112、NO.207 城・16）



庚申天西（2013.3.9 撮影）